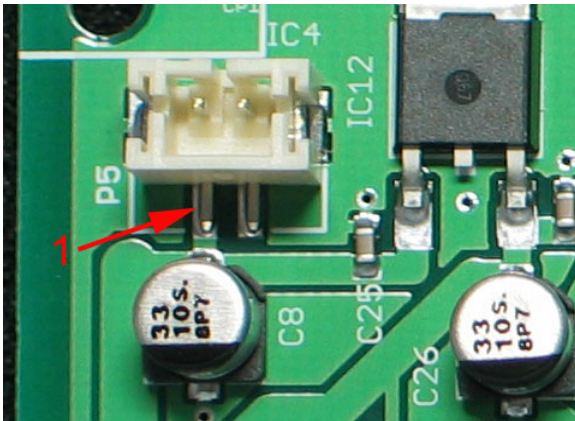


本追補は、基板リビジョン1.11以降のSDRAM_DAI基板に適用されます。仕様書の該当する箇所に対して追加、乃至差し替えてください。

1. 電源

5V±0.5V(200mA)程度 2ピンコネクタ「P5」の1番ピンに5V、2番ピンにGNDを接続。「P5」のピン番シルクが抜けてしまったので、図をご覧ください。



5. デジタルオーディオ出力コネクタ

「P4」「P6」の4番ピンMCLKOの周波数は、信号のfs別にSDRAMモード/SDRAMバイパスモードで下表のようになっています。

※古いリビジョンのSDRAM_DAI基板とは異なります。

	32k	44.1k	48k	88.2k	96k	176.4k	192k
SDRAMバイパス	256fs	256fs	256fs	256fs	256fs	128fs	128fs
SDRAMモード	384fs	512fs	512fs	256fs	256fs	128fs	128fs

7. SDRAM メモリーポインタの表示

P8 Function 説明

ピン番号	名称/機能	Function									
1	Reserve										
2	LED A (出力)	L	H	L	H	L	H	L	H	X	
3	LED B (出力)	L	L	H	H	L	L	H	H	X	
4	LED C (出力)	L	L	L	L	H	H	H	H	X	
5	LED EN (出力)	H	H	H	H	H	H	H	H	L	
6	Reserve										
7	Reserve										
8	X4 H (出力)									H	L
9	GND										
	Active LED	PT7	PT6	PT5	PT4	PT3	PT2	PT1	PT0	ALL OFF	
	176.4/192KHz									YES	NO

SN74**138でデコードして8個のLEDを駆動することによって、ライト/リードそれぞれのアドレスポインタの位置関係を知ることができます。

具体的な回路はNEW-LED基板の回路図を参考にして下さい。

※注意

入力切替、サンプリング周波数切替、ならびにメモリー深度切り替えの各ロータリー・スイッチを回すときはガチャガチャと早回しはしないように、ゆっくりと1段階ずつ確実に操作してください。
早回しをした場合、まれにシステムがハングすることがあります(本来、操作系はマイコンを使用する等によって「早押し」や「早回し」などのいわゆるいじわる動作に耐性を持たせた機器設計をしますが、本基板は自作の便を考慮して簡単に製作できるようにロータリー・スイッチによる作例のみをご紹介します)。
なお、万一システムがハングした場合のオーディオ出力データは不定値です。DC直結システムでお使いの際は、念のため電源ONの状態でもロータリースイッチを切り替えしないでください。